

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くろーばーたからづか		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 7日		2025年1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2025年 1月 14日		2025年 1月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全ての職員が得意分野を活かし、様々な活動プログラムを考え、子どもたちに提供できているところ。	プログラム作成にあたっては、個別であるものと集団であるもの、静かに取り組むものと体を動かし活動的に取り組むものをバランスよく取り入れるようにしています。その日の利用メンバーによって難易度を変えるなどの工夫をすることで、ひとりでも多く自主的に参加できるように心がけています。	職員の更なる質の向上。利用児童の特性だけでなく、今興味を持っているもの・子どもたちの間で流行っているものなどを普段のやり取りの中でリサーチし、協力しあってプログラムに取り入れていければと思います。
2	全員が揃うまでの個別療育の時間。	宿題や課題プリントで学習面の底上げをしたり、じっくり会話をすることで語彙力の向上を図っています。集団では取り組みにくい個別のLSTやSSTもこの時間を利用してしています。	課題を与えるばかりではなく、本人がしたいこと・興味のあることを引き出し、自己決定力→実行力を育む支援につなげていければ、と思います。
3	ご家族に対する丁寧な対応。	お送りする際、できるだけその日のお子さまの様子をお伝えするようにしています。連絡帳は療育時間内に記入することになり詳しく書けないときもありますが、療育に支障がない範囲でできる限り記入しています。	今後もお子さまの状況をスムーズに情報共有できるよう、日頃から信頼関係の構築に努めてまいります。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が狭い。	限られた空間を少しでも多く療育スペースを確保できるよう努めています。	利用児童だけでなく、職員も快適に過ごせる空間作りをレイアウト変更も含め考えていきます。
2	非常勤スタッフが日々の支援の提供以外のところの知識を得る機会が少ないところ。	今回のアンケートで実際にはできていることを「できていない」「わからない」と答えている職員が半分ほどいることがわかりました。関係機関との連携や事業所運営のことなどは伝えていないことも多かったです。	月1回のミーティングだけでなく、日々の会話や申し送りの中で管理者および児発管がそういったことも伝え、全職員が少しずつ理解を深めていければと思います。
3	事業所外とのつながりの希薄さ。	まずは「利用児童への日々の支援の充実」を第一に考え取り組んできました。その結果、事業所外との積極的な関わりはなかったように思います。	今後は今までよりさらに関係機関各所とのつながりを大切に、利用児童の支援をより充実したものにしたいと思えます。